

平成 25 年 10 月 30 日

釜石市議会議長 海老原 正人 様

会派名 民政クラブ
代表者 和田松男



会派視察報告書

当会派所属議員による視察報告を下記のとおり実施しましたので、報告いたします。

1. 視察項目： 浮上式防波堤について（和歌山県海南市）

日 時 平成 25 年 10 月 24 日

参加者： 和田松男 松坂喜史 小鯨利弘 菊池秀明 遠藤幸徳

相手方： 海南市議会 副議長 中西 徹

海南市副市長 伊藤 明雄

国土交通省 近畿地方整備局 和歌山港湾事務所

朝木 海岸課長

福田 港湾保安調査官

海南市総務部危機管理課

橋本 危機管理課長

楠間 危機管理課長補佐

場 所 海南市役所 会議室

研修内容

視察に取り上げた理由

東日本大震災から 2 年 7 か月経過した現在、被災地区における津波対策の最強インフラは防波堤であります。三陸海岸における防波堤はコンクリート構造による固定式です。和歌山県海南市に於いては直立浮上式防波堤が計画され、実証実験工事が行われ、今後 30 年以内に高い確率で発生が予測される南海トラフの地震、津波に備える事業であります。

固定式防波堤は海岸の景観の観点から問題がありますが、計画されている浮上式防波堤は海岸の景観を妨げることではなく画期的な施設だと思います。今後の津波防災対策を論じる上に於いても、費用対効果を含む津波対策という共通認識に於いて研修すべき課題として取り上げました。



研修内容

中西徹副議長より東日本大震災の被災地へのお見舞いと歓迎の挨拶をいただき、海南海市
の概要についての紹介がありました。

伊藤副市長より歓迎の挨拶と共に、今後30年以内に予想される南海トラフ地震の津波
高は8mと予測されます。被害をいかに少なく抑えるかが大きな課題です。直立浮上式
防波堤もその対策の一環であるとの紹介がありました。

和田松男代表より、視察研修にあたり多忙のところ応対いただき感謝いたします。また、
東日本大震災に際しては、励ましや、ご支援をいただき感謝しております。今回の御市
の研修は南海トラフ巨大地震などの発生に備えての浮上式津波防波堤を中心に施設研
修をさせていただきたいと思いますとお礼とお願ひの挨拶をしました。

朝木海岸課長よりパワーポイントを使用して浮上式津波防波堤について説明を受ける。

(内容については説明資料を添付しております)

質疑応答

問 耐用年数とメンテナンスについて

答 耐用年数は50年程度です。メンテナンスに於いては毎年浮上試験を行い点検する。

問 地震に伴い地盤沈下が考えられるが地質は問題ないか

答 岩盤層なので構造的には想定していない。全体的な地盤沈下は想定している。

問 防波堤を整備することにより、市民は防波堤は万能であると認識する可能性がある
と思いますが、市民への周知はいかように

答 最大クラスの津波には対応できないと思いますので、市民への避難方法等について
周知を徹底したいと思います。

問 市街地は平たん地ですが、津波対策の避難路の整備は

答 避難場所を含め避難道路を整備している。

現地視察 (下津港海岸にて)



所感・課題

視察した和歌山県下津港海岸津波対策事業は、総事業費 250 億円、事業期間が平成 21 年から平成 31 年となっている。航路部に隣接する箇所において、鋼管 3 本を 1 セットとして、施工精度の確認及び動作確認試験を行うものとするものである。試験結果が出ていない現時点においては、この工法を当市の震災対策として活用できるか否かは判断できない。しかし、北海道南西沖地震で地震と津波で被災した奥尻町の、コンクリートと鉄筋で固められた防災の島を思い浮かべる時、津波時にのみ防波堤が浮上する世界初の技術として進められている海南市の津波対策事業は、今後当市において震災対策施設として活用が可能か否か、今後の試験の成果が期待される。

なお、海南市が和歌山市を含む 4 市 1 町で運用を開始した「消防通信指令システム」は時間の関係で説明を受けるに至らなかった。

また、最終日の 25 日に予定していた今治市は、太平洋戦争において B29 による空襲に遭遇しながらも、港を中心に商業都市としてタオルや縫製、さらに造船を基幹産業として目覚ましい発展を遂げた都市であり、当市の震災後のあらたな街づくりの参考になると期待していたが、松山市において台風 27 号の影響により電車の運行がストップいたため視察の中止を余儀なくされたことが極めて残念でありました。

平成25年10月23～26日 民政クラブ視察研修

